



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和4年11月発行

メタ認知を高めて「自分みがき」に挑戦

校長 土屋 貴俊

2日の懇談会でも説明いたしました。14日より自分みがきタイムが始まります。10月に実施したCS オール丹那会議にて委員から「勉強をして算数の問題が早く解けたり、漢字を正しく書けたりすることよりも、勉強をすることによって『人間を磨く』ことが大切である。それが生きる力になっていく。」という話がありました。

子供たちはいずれ、社会に出て行きます。仕事をしていく中で何か課題にぶつかったら、自分に合った方法で探究し解決していかなくてはなりません。誰かと話し合ったり、何らかの方法で情報を得たりして自分なりに考えていくものと思います。

また、自分を磨くためには自己理解が大前提です。「自分は何ができて、何ができないのか」、「得意なもの苦手なものは何か」等自分を客観視する力が必要です。その力を「メタ認知」といいます。メタ認知の高い子供は、以下の3点のように考えることができます。

① 具体的な目的「なぜそうするのか」や目標を考えることができる。

「先生に叱られるから宿題をする」→「漢字を間違いなく書けるようにしたい」

② 自分がしているやり方は、適切な方法なのかを考えることができる。

「計算ドリルは答えを写して出せばよい」→「間違えても自分でやろう」「なぜ間違えたのか考えながら、もう一度やり直してみよう。」

③ 結果が悪くてもよくても、なぜそうなったかを考えることができる。

「やってもどうせできないよ」「どうせ私は・・・」→「どうしてうまくいかなかったのだろう」「なぜ、うまくいったのかな」等

それでは、子供たちのメタ認知を私たち大人はどのように高めていけばよいのでしょうか。

学校保健委員会でも話題となった、横並びの「共有体験」がキーワードになりそうです。

① 学習計画表を(一緒に)作成したり、修正したりしていく

「いつ」「どこで」「何を」「どのくらい」学習するか計画する。うまくいかなかったらどこが悪かったのかを分析して修正する。

② 努力や成長した点を具体的に褒める。「すごいね」「よかったね」だけでなく、努力の過程で何がよかったかを認め褒める。「～したからうまくいったんだね」

③ うまくいかなかったときは、叱らず何が悪かったのかを一緒に分析する。

④ 大人が子供の考えを即座に否定するのではなく、話を最後まで聞きよりよい方法へ導く。

この「自分みがきタイム」は、子供たちの主体性を高める取組です。授業においても「教わる」から「子供が学ぶ」授業へ変えていきます。皆様の御協力をお願いします。